



# Library Liébana

## 2024年10月度展示内容のお知らせ

### 【今月の展示写本】

大型の写本を中心に展示します。

- (1) ベアトウス黙示録写本群のなかで特に大型の写本4点を展示します。
- (2) 聖書や黙示録写本で大型の写本2点を展示します。

### 【大きなベアトウス写本】



(ラスウェルガス写本)  
縦520×横364



(マンチェスター写本)  
縦454×横326



(カルゲニャ写本)  
縦445×横300



(アローヨ写本)  
縦440×横305

### 【大きな黙示録写本】



(トリニティ黙示録写本)  
縦435×横320



(道徳聖書(教訓聖書))  
縦344×横260

## ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：  
オリジナル写本の大きさや色を再現。  
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に  
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5  
VITS豊田タウン B1F  
(西町5丁目北交差点の  
外側階段を降りて下さい)  
10:00~17:00

10月の開館日(予定) 水・木・金・日曜日  
(HP、インスタで確認下さい)

2024年10月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 (休み)	2 10:00 -17:00	3 10:00 -17:00	4 15:30 -17:00	5 (休み)	6 10:00 -17:00	
7 (休み)	8 (休み)	9 10:00 -17:00	10 13:00 -17:00	11 10:00 -17:00	12 10:00 -17:00	13 10:00 -17:00
14 10:00 -17:00	15 (休み)	16 13:00 -17:00	17 13:00 -17:00	18 10:00 -17:00	19 (休み)	20 10:00 -17:00
21 (休み)	22 (休み)	23 10:00 -17:00	24 13:00 -17:00	25 10:00 -17:00	26 (休み)	27 10:00 -17:00
28 (休み)	29 (休み)	30 14:00 -17:00	31 10:00 -17:00		2	3
4						

10月4日(金)は15時開館、10日(木)、16日(水)、17日(木)、24日(木)は13時開館、20日(水)は14:00開館、20日(日)はお休みです。



Google Map



H.P.



Instagram



# ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち20写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

## 今月の展示写本

- ① 大きなベアトゥスの黙示録註解書写本
- ② 大きな写本

### ①【ラス・ウェルガス写本】

ベアトゥス写本の中でも1220年という最も遅い時期に制作された最も大型の写本。

ヨハネの黙示録に関する約70点の挿絵とダニエル書の聖ヒエロニムスによる解説に伴う10点の挿絵を含む。また、ベアトゥス写本では珍しく、系図の中に創世記やマギの崇拜が描かれ、また東方三賢王の礼拝や荘厳のキリスト(マイエスタス・ドミニ)、エルサレム破壊における攻防などの場面、伝道者たちの肖像などが描かれている。

### ②【マンチェスター(ライランズ)写本】

1175年ごろの作と推測。ほぼ完全な状態で保存されてきた数少ない写本です。後期カロリング文字が2列に書かれ、110点の挿絵が金銀で鮮やかに彩られています。

印象的なのは、ノアの箱舟(f. 15)の挿絵で、各小部屋の動物がペアで描かれていることです。

### ③【カルデーニャ写本】

1175年から1185年の間という比較的遅い時期に作成されたベアトゥス写本の中のひとつであり、最も豪華でクオリティの面で評価の高い写本の一つ。

51点におよぶ細密画は極めて美しく、本書の製作に関わった装飾画家たちの技術の高さと繊細さ・緻密さを物語っており、赤・青・緑の色調が金箔の輝きと一体化した活気のある鮮やかな図像と、熟練した写字生による文章とが完璧な調和を作り出している。

### ④【アローヨ写本】

アローヨ写本は現存する挿絵入りのベアトゥス写本群の中では最も新しい作(13世紀前半?)で、10世紀から続く伝統を保持しながらも、随所に新構想や新図像が認められる。12世紀後半以降の後期ベアトゥス写本グループの中で、ライランズ写本、カルデーニャ写本、ラス・ウェルガス写本の3冊と特に関連が深い。大きさもそうだが、金箔・銀箔を随所に用いた豪華さ、それにテキストの行間やページの余白に、読み手である修道士の注意書きが数少ないのが、何か特別な理由による制作であったことをうかがわせる。

### ⑤【トリニティ黙示録写本】

13世紀半ばに英仏で流行した黙示録の中でも特異な位置にある黙示録。当時の写本としては大判(435×320)の写本で、豪華絢爛に彩色されていることから、高貴な身分の人に献呈されたと考えられる。(Henry三世の後 Eleanor of Provence?)

Trinity Apocalypseにおいては、他に例を見ない緻密な歴史的感覚を持って、青年ヨハネが逐次年を重ね、顎髭を蓄え、老境に入る姿が、彼の生涯に起こる事柄の推移とともに描かれている。

### ⑥【道徳聖書(教訓聖書)】

1220年代のパリで作られたものの一つで、現存する唯一のフランス語写本(他はラテン語)。

道徳的な教育のために造られた絵本のようなもので、もっとも有名な挿絵は一番最初に描かれている神の絵で、カオスから円形の宇宙を設計するためにコンパスを使用している創造主神の絵です。

それ以外のページは、聖書の物語が各ページに8つの図(円形のメダリオン)として描かれ、2列4弾で構成され、各図の横にその内容を説明するテキストが書かれています。